

これからの熊本のスポーツ施設整備

現在、全国のスポーツ施設は、競技の場から地域のにぎわいや経済を生む『交流拠点』へと進化しています。エスコンフィールド北海道や長崎の新スタジアムのように、試合観戦だけでなく「訪れること」が目的となる空間づくりが進み、アリーナやスタジアムが飲食・商業施設と一体となり地域経済をけん引する時代が始まっています。

一方、本県では上熊本の県立体育館、藤崎台球場、熊本武道館は老朽化が進み、建替えか再整備かの岐路に立っています。県は利用者目線や安全性、立地、民間連携などを踏まえた検討を進めています。スポーツを通じて地域の活力と誇りを育む拠点づくりが、今まさに問われています。



3つの県有スポーツ施設	整備の方向性	当面の対応	
熊本県立総合体育館	現地再整備	令和8年～	最優先で整備を進めるため、来年度、基本計画策定等に取り組む。
藤崎台県営野球場	移転再整備	令和8年～	熊本県立総合体育館の整備から間を置かずに取り組む。
熊本武道館	改修（空調設備等の整備）	令和7年～	既に空調設備等の整備に向けた現地調査や検討に着手。設計・工事等を早急に実施。

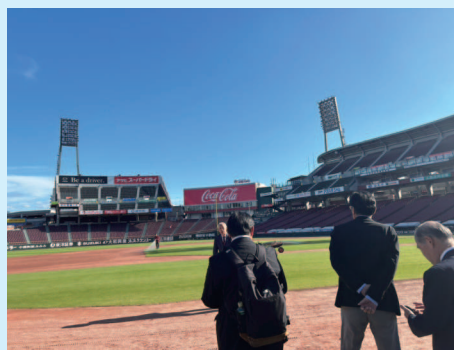
① MAZDA Zoom-Zoom スタジアム

市民が誇れるボールパークとして16年目を迎えたマツダスタジアムを訪れました。県・市・民間が役割を分担し、将来を見据えて整備されたその姿は、地域経済と一体となったにぎわいづくりの象徴でした。

特に印象的だったのは、「おらがチーム」広島カープを支える市民の誇りと愛着です。

かつて経営難の時代には「樽募金」で市民が球団を支えた歴史があり、その思いと寄付の文化が現在のスタジアムづくりにも息づいています。

熊本でも、単なる競技施設ではなく、人の流れと街の活力を生み出す拠点づくりの重要性を改めて感じました。



② エディオンピースウイング

昨年2月、街の中心部に新たに建設されましたが、アクセスの良さと開かれた空間設計が印象的でした。試合日以外もイベントや商業施設と連動し、市民が日常的に訪れる『都市型スタジアム』としてにぎわいを生み出しています。

サンフレッチェ広島のホームスタジアムとして、チームを応援する市民の熱意がまち全体に広がり、寄付を通じた支援にもつながっていました。

チームが強くなれば応援が盛り上がり、その応援がさらにチームを強くする～その好循環が地域の誇りを形づくっていると感じました。

熊本のアリーナ整備を進めるうえでも、利便性や民間活力との連携、そして市民参加の力の重要性を改めて認識しました。



そんな折、11月6・7日の日程で委員長を務める県議会経済環境常任委員会で広島市を訪問し、スポーツ施設整備の先進事例について視察を行いました。その概要をご報告いたします。

経済環境常任委員会視察

視察を終えて

1998年に開場した「えがお健康スタジアム(熊本県民総合運動公園陸上競技場)」は国際試合や大規模イベントがあるたびに、駐車場の確保やピストン輸送の手配に関係者は頭を悩ませています。こうした現状を見るにつけ、今後のスポーツ施設整備では、同様の課題を次世代に残してはならないことを痛感します。単に土地の広さ・コストだけでなく、未来を見据えた上でより多くの県民にとっての利便性を優先した整備が求められます。

今回視察した2つの施設はいずれも街の中心部に立地し、既存の交通インフラを生かした高い利便性が印象的でした。試合前後に来場者が周辺を回遊し、にぎわいと経済効果を生むなど、「まちなかに整備すること」の意義を改めて実感しました。

広島と熊本では都市の規模や日本を代表する企業の有無といった面で違いはありますが、地域と行政、民間が一体となつてまちの活力を育む姿勢には多くの学びがありました。

羨ましさを感じつつも、熊本でも県・市民が誇りを持ち、若者が集い、地域に活力をもたらすそんな未来を描きながら一歩ずつ施設づくりを進めていきたい。そう強く感じた視察となりました。

第19回れいすい杯ミニバレーボール大会開催

10月26日、城南スポーツセンターにて「第19回れいすい杯ミニバレーボール大会」を開催しました。今年も熊本市内をはじめ県内各地から77チーム、300名を超える皆さんにご参加いただき、会場は朝から笑顔と熱気に包まれました。

「れいすい杯」の魅力は、なんといっても上級者から初心者まで、誰もが楽しめるクラス分けを行っていること、そして60社を超える企業・事業所の皆さまからいただいた協賛品を、全チームにお持ち帰りいただくことにあります。

本部席前にズラリと並んだ数々の賞品を前に皆さんの目もキラキラ輝き、開会前から表情が期待に満ちていました。どのコートでも熱戦が繰り広げられ、チームの絆が深まるプレーや笑い声があふれました。

表彰式では恒例のクイズやジャンケン大会が行われ、会場全体が一体となつて盛り上がり、歓声と笑顔いつぱいで幕を閉じました。

そして何より嬉しかったのは、すべてが終わったあと、玄関でお見送りをしていると、多くの参加者の方々から「とても楽しかったです」

「また来年も参加します!」と声をかけていただいたことです。その言葉に、この大会を続けてきて本当に良かったと改めて心から感じました。ご参加くださった皆さん、協賛企業・事業所の皆さん、そして運営を支えてくださったスタッフの皆さんに心より感謝申し上げます。また来年も、笑顔と感動の詰まった一日と一緒に過ごしましょう!



高島和男事務所

〒862-0962 熊本市南区田迎 2-17-7

届けます! あなたの思いを県政に
高島和男サポーター募集中です!

TEL.096-288-6004
FAX.096-288-6009

動画を毎月公開しております!
ホームページをぜひご覧ください。

<https://takashima-kazuo.com>

Facebookもやっています!

